# オントロジーの理論、記述言語、利用環境

## 奈良先端科学技術大学院大学 武田英明

## オントロジー構築の基礎

- オントロジーをいかにあるべきか
  - ■オントロジーの理論
    - ◆Guarinoの形式的オントロジー
- オントロジーをいかに記述し、利用するか
  - ■オントロジーの記述言語
    - ◆ARPAの知識共有活動 (KIF, KQML, Ontolingua)

## Guarinoの形式的オントロジー

オントロジーをいかに構成すべきかという ことに関して、論理的および哲学的立場から形式的に議論して、top-level オントロ ジーの構成原理を定式化

## 基本となる理論

- ものの認識とその表現の分別
  - Particulars: 実世界の実体の認識、事象、量等
  - Universals: 実体を語る際のカテゴリー、概念、属性、 等
- 部分の理論:何を実体の部分とみなすか
- 全体性の理論:何を全体とみなすか
- 同一性の理論:いかなるとき実体は同一か
- 依存性の理論:実体同士の依存関係

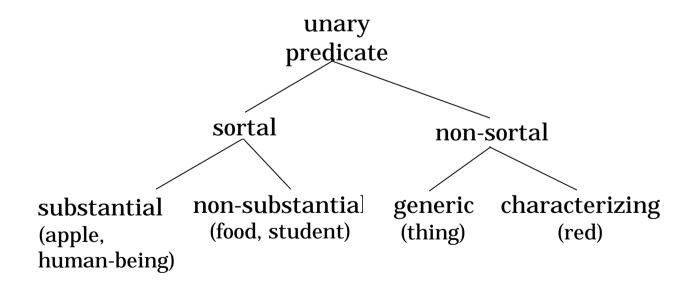
## Particularsのオントロジー

- Substrate: 外延的に同一 性基準による実体
- object:非外延的同一 性基準による実体。部 分性。
  - 空間的・時間的位置の 有無で区別
- Concrete objectはさらに strataによって区別される

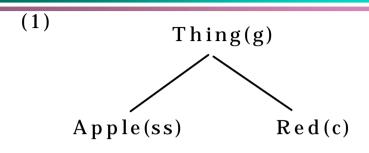
Particular
Substrate
Location
Space
Time
Matter
Object
Concrete object
Continuant
Occurent
Abstract object
Qulality

#### Strata Static (a situation) Mereological (an amount of matter) **Physical Topological** (a piece of matter) Morphological (a cubic block) **Functional** (an artifact) **Biological** (a human body) Intentional (a person or a robot) Social (a company)

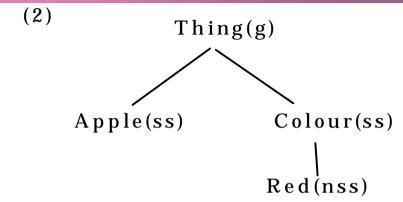
- Sortal/non-sortal: sortalとはその個体を峻別する原理を持 つもの
- substantial/non-substantial: sortalの区分
- generic predicate/characterizing predicate:の区分



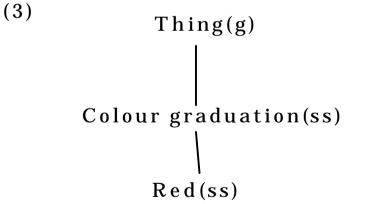
- 自然であるnatural: C = x Px
- オントロジー的に固定されている(ontologically rigid)Cl= x(Px Px)
- 分割可能(divisive)C |= x (Px y.y<x) x (Px ( y.(y<x Py)))</li>
- 一般的述語 rigidかつdivisive
- 実質的にsortal: rigidかつ非divisive
- 非実質的にsortal: 非rigidかつnaturalな述語で、ある実質的にsortalに包含される。Cl= x (Px Sx)
- 特徴づけ述語 : #rigidかつnaturalな述語で、ある実質的に sortalに包含されない



This apple is red.



The colour of this apple is red.



Crimson is a red

ss: substantial sortal c: characterizing predicate nss: non-substantial sortal

(4)

g: generic predicate

Thing(g)

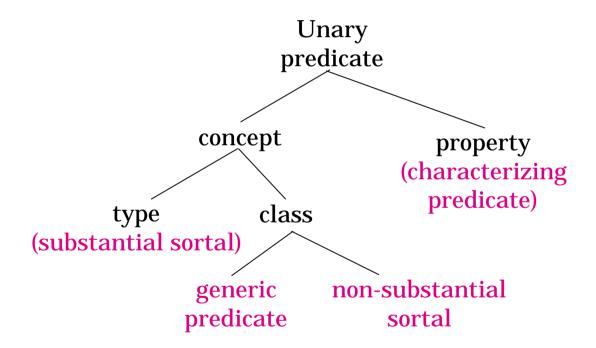
Human-being(ss)

Red(nss)

John is red.

Nara Institute of Science and Technology

- 知識記述言語の概念のオントロジー

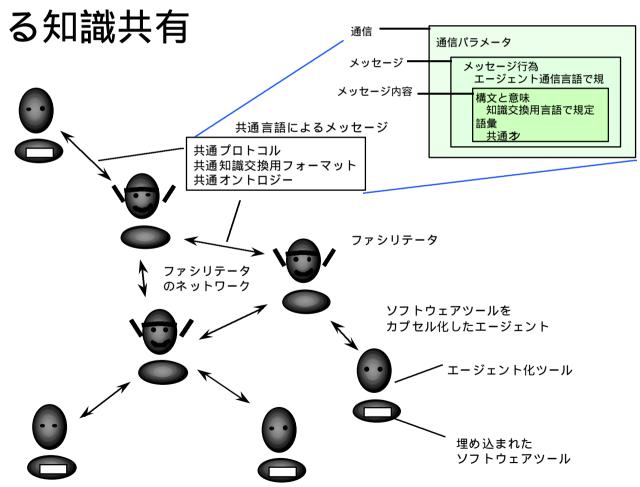


## 知識共有とオントロジー

●ARPAの知識共有の枠組み

Nara Institute

エージェントとそのコミュニケーションによ



## エージェント通信の3つの層

- 通信層:
- メッセージ層
  - エージェント通信言語で記述
  - KQML(Knowledge Query and Manipulation
- メッセージ内容層
  - メッセージ内容のシンタックスとセマンティックス
  - シンタックスは知識交換用言語 KIF(Knowledge Interchange Format)
  - セマンティックスは共通オントロジー記述用言語 Ontolinguaで

## KQML(Knowledge Query and Manipulation Language)

- 人間どうしの対話を分析した発話行為理論に基づく
- エージェントを仮想知識ベースとしてメッセージ交換を行う
- KQMLのメッセージの例

(tell: language KIF

:ontology motors

:in-reply-to q1

:content (fastens frame3 motor5))

## Performativeの種類

- Basic information performatives tell, deny, untell,
- Database performatives insert, delete, delete-one, delete-all
- Basic responses error, sorry
- Basic query performatives evaluate, reply, ask-if, ask-about, ask-one, ask-all, sorry
- Multi-response query performatives
  - stream-about, stream-all, eos
- Basic effector performatives
  - achieve, unachieve
- Generator performatives
  - standby,ready, next, rest, discard, generator
- Capability-definition performatives
  - **♦** advertise
- Notification performatives
  - subscribe, monitor
- Networking performatives
  - register, unregister, forward, broadcast, pipe, break, transport-address
- Facilitation performatives
  - broker-one, broker-all, recommend-one, recommend-all, recruit-one, recruit-all

# KIF (Knowledge Interchange Format)

- 1階述語論理を拡張して、項の定義、メタ知識 (知識に関する知識)、集合、非単調理論などを記述できるようにした知識交換言語
- 1階述語論理の表現をLisp風の記法で表現
- 拡張部分
  - 集合・リストの表現setof,やlistof
  - ifやcondによる条件記述子
  - defobject, deffunction, defrelationを使ってオブジェクト、関数、関係を定義

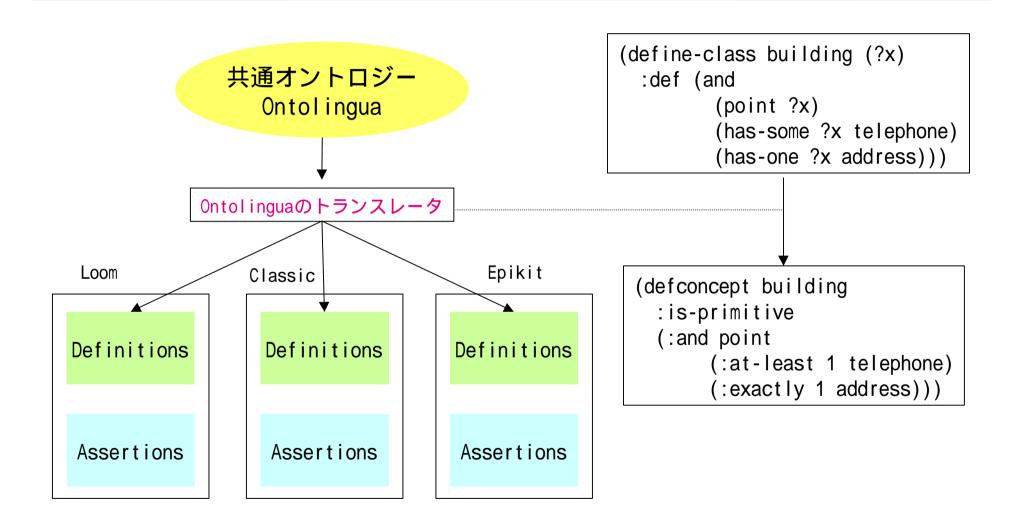
# KIFによる表現の例

述語論理 / 数学の表記	KIF
(1) 項	
X + Y	(+ ?x ?y)
{a, b, c, d}	(setof a b c d)
$\{x \mid \text{wheel}(x)  \text{made-in-japan}(x)\}$	(setofall ?x (and (wheel ?x)
;「日本製の車輪の集まり」	(made-in-japan x)))
x [wheel( $x$ ) made-in-japan( $x$ )]	(the ?x (and (wheel ?x)
;「その日本製の車輪」	(made-in-japan x)))
x [wheel( $x$ ) made-in-japan( $x$ )]	(kappa ?x (and (wheel ?x)
;「…は日本製の車輪である」	(made-in-japan x)))
x [founded-year(vendor(x))]	(lambda ?x
;「xの製造者の設立年」	(founded-year (maker ?x)))
if number( $x$ ) $x = 0$ then $1/x$	(if (and (number ?x) (not (= ?x 0)))
; 「 x が 0 でない数のとき、1/x (を与える関	(/ 1 x))
数)」	
(2) 命題	
p (a, b)	(p a b)
x y[product(x) vendor(y) makes(y,x)]	(forall ?x
	(exists ?y
	(=> (product ?x)
	(and (vendor ?y)
	(makes ?y ?x)))))

## Ontolingua

- Ontolinguaは、対象領域の概念的なモデリングと その表現のしかたに関する合意を明示的に表示 するためのオントロジー記述言語
- KIFのなかの定義に関する表現を用いて、対象領域をオブジェクト、関数、関係の集まり(オントロジー)として形式化して定義

## Ontolinguaによる知識の共有へのアプローチ



# Ontolinguaによる記述の例

?authorがauthorであるとは、?authorがpersonであり、単一値を取り、値のタイプがbiblio-nameであるAUTHOR.NAME属性と、1個以上の値を取るAUTHOR.DOCUMENTS属性をもち、?authorのauthor.nameとperson.nameが同一値となることを意味する。」

## オントロジーの設計 -- 設計の要件

## • 明瞭性

■ オントロジーは定義された用語の意図した意味を効果的に伝達しなければならない。定義は客観的でなければならない。そのためには、形式を整えるとともに、できる限り完全な定義を与えることが望ましい。

### • 結束性

■ 定義と整合性のある推論を促進する必要。少なくとも、基底となる公理は無矛盾でなければならない。

## • 拡張可能性

- 適用しようとしている領域に関する概念的な基礎を与える必要。利用者がオントロジーを拡張したり、特化することを可能にしなければならない。
- 最小限のコーディングバイアス
  - インプリメンテーションに独立にした知識レベルの表現を使うべき
- 最小限のオントロジーのコミット
  - モデル化しようとしている世界に関する先験的な仮定をできる かぎりなくすこと